

疝痛の診断・予防・治療法

日高育成牧場
業務課
福田一平

疝痛（急性腹症）とは??

胃や腸管の疾患を原因とする**腹腔内の疼痛**



病態は複雑のため、
確定診断は難しい!!!

重症度も軽度～重度まで様々

軽度

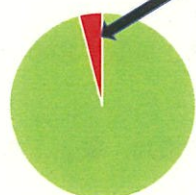
ほとんどの疝痛は軽度!!



1回の鎮痛剤で治る (80~90%)

重度

要手術



3~4%の症例は手術が必要

本日の講義の流れ

- I : 主な疝痛の種類
- II : 馬が疝痛になりやすい理由
- III : 疝痛の症状
- IV : 疝痛の診断
- V : 疝痛の治療
- VI : 疝痛の予防

疝痛の診断・予防・治療法

I : 主な疝痛の種類

- II : 馬が疝痛になりやすい理由
- III : 疝痛の症状
- IV : 疝痛の診断
- V : 疝痛の治療
- VI : 疝痛の予防

主な疝痛の種類



風気疝

軽度 中等度

原因

胃や腸管にガスがたまる

→ 変腐飼料の摂取、発酵性飼料の過食 など

症状

前掻き、横臥 など

痛み

比較的強い



横臥しようとしている

痙攣疝

軽度 中等度

原因

ストレス、興奮、寒冷 など

症状

腹鳴音の増加、軟便 など

痛み

比較的軽度



前掻きを繰り返す

便秘症

中等度

重度

原因

腸内容物の貯留

→ 休養や運動不足で腸の動きが悪くなる

症状

排糞がない、糞が硬い、排尿姿勢 など

痛み

鈍痛

手術が必要な場合もある！



排尿姿勢

過食症

中等度

重度

原因

急激な給餌による胃の拡張

痛み

間歇的もしくは、継続的な激痛

→ 悪化すると・・・・・・・・
胃破裂に発展することも



胃破裂後のショック症状

寄生症

中等度

重度

原因

馬回虫、円虫、葉状条虫などの寄生

症状

腸閉塞、腸破裂、血行障害 など

ひどいものでは、死に至ることもある



葉状条虫の寄生 (回盲口周囲)

変位症

重度

原因

腸の位置の変化や捻れ

症状

七転八倒、血行障害 など

痛み

激しい痛み

→ **多くの場合、手術が必要！！**



激しい寝起きによる全身の擦過傷

その他

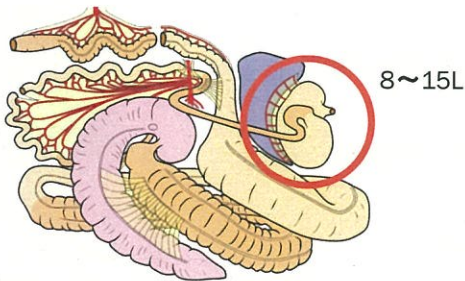
- 胃潰瘍
- 麻痺性筋色素尿症 (すくみ)
- 子宮捻転
- そ径 (陰囊) ヘルニア
- 食道梗塞 (のどつまり) など

疝痛の診断・予防・治療法

- I : 主な疝痛の種類
- II : 馬が疝痛になりやすい理由
- III : 疝痛の症状
- IV : 疝痛の診断
- V : 疝痛の治療
- VI : 疝痛の予防

馬が疝痛になりやすい理由①

- 胃が小さい
- 嘔吐が困難



馬が疝痛になりやすい理由①

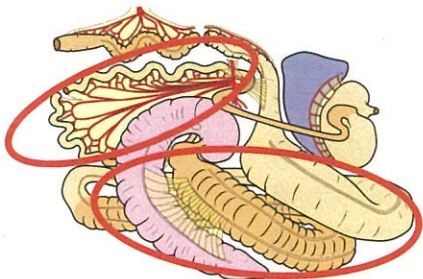
- 胃が小さい
- 嘔吐が困難



- 胃拡張、胃破裂、胃潰瘍

馬が疝痛になりやすい理由②

- 腸間膜が長い
- 結腸が固定されていない



馬が疝痛になりやすい理由②

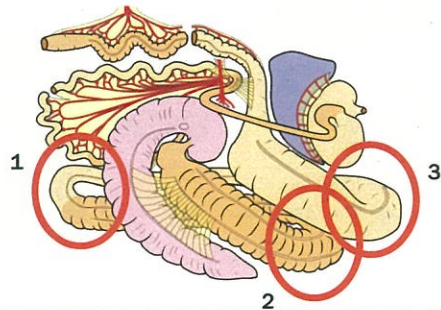
- 腸間膜が長い
- 結腸が固定されていない

- 腸管が変位、捻転
を起こしやすい。



馬が疝痛になりやすい理由③

- 腸の太さが異なる



馬が疝痛になりやすい理由③

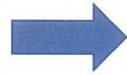
- 腸の太さが異なる

- 内容物がたまりやすい



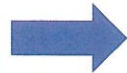
馬が疝痛になりやすい理由③

• 腸の太さが異なる



• 内容物がたまりやすい

• 腸の神経が鋭敏



• 内臓痛が発生しやすい

疝痛の診断・予防・治療法

I : 主な疝痛の種類

II : 馬が疝痛になりやすい理由

III : 疝痛の症状

IV : 疝痛の診断

V : 疝痛の治療

VI : 疝痛の予防

臨床症状

軽度～中等度の痛み



→ 風気疝、痙攣疝など

鈍痛



→ 便秘疝など

重度の痛み



→ 変位疝など

臨床症状



軽度～中等度の痛み

- 前掻き
- 腹部を見る
- 背を丸める
- 上唇を震わせる
- 食欲の低下 など



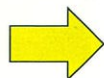
- 風気疝
- 痙攣疝 などを疑う

臨床症状



鈍痛

- ・ 横臥
- ・ あまり元気がない
- ・ 排尿姿勢
- ・ 食欲のわずかな低下



便秘疝を疑う！

臨床症状



重度の痛み

- ・ 寝起きを繰り返す
- ・ 激しい前掻き
- ・ 発汗
- ・ 七転八倒
- ・ 全身の擦過傷
- ・ 食欲の廃絶



変位疝を疑う！



疝痛の診断・予防・治療法

- I：主な疝痛の種類
- II：馬が疝痛になりやすい理由
- III：疝痛の症状
- IV：疝痛の診断
- V：疝痛の治療
- VI：疝痛の予防

一般情報の収集が大切！

- ・ 発症時期
- ・ 食欲、飲水
- ・ 排便の状態（硬さ、乾燥、粘膜の付着、下痢）
- ・ 症状
- ・ 疼痛の程度
- ・ 飼養管理（給餌量、給餌内容）
- ・ 飼育管理（運動量、休養していないか）
- ・ 最近の治療歴
- ・ 環境の変化

重症度や経過を知る上で非常に重要！！！！

生理的な検査

- 体温

37.5～38.3℃

- 心拍数

28～40回（成馬）

- 呼吸数

8～16回（成馬）



症状に応じて上昇

生理的な検査

- 可視粘膜（口腔粘膜・結膜）

正常：薄い桃色



- CRT（毛細血管再充填時間）

正常： 1～2秒



聴診

- 一般的に、腸の動きは減少

重度の腸疾患 ⇒ 全く動かない

大腸の拡張 ⇒ ガス音

痙攣疝、腸炎 など ⇒ 動きが多い



直腸検査

- 腸管の位置

⇒捻れていないか？

- ガスによる拡張

- 内容物の貯留

⇒量と硬さはどうか？



胃内視鏡検査

- 胃潰瘍のチェック
⇒現役競走馬の約70%以上
育成馬の約30%が罹患している

胃潰瘍が疝痛を引き起こすことがある



重症の場合に行う追加検査

- 腹部超音波検査（エコー検査）
- 血液検査
- 腹水検査

エコー検査

- リアルタイムで確認
- 非侵襲的に消化管の評価が可能
- 直腸検査のような経験的手技が不要

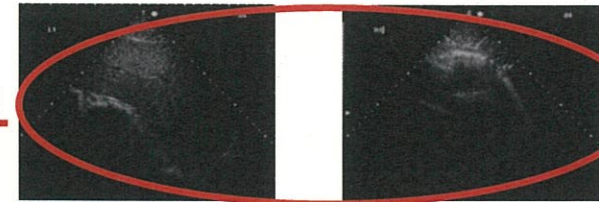


正常像

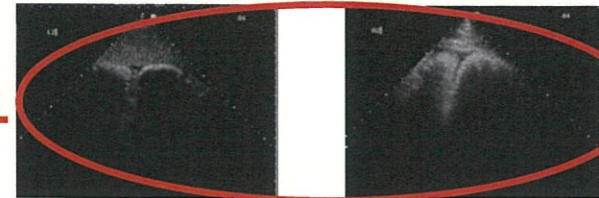
左

右

背側膝部



腹側膝部

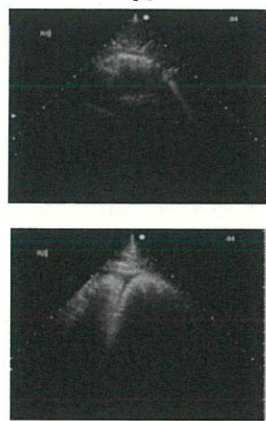
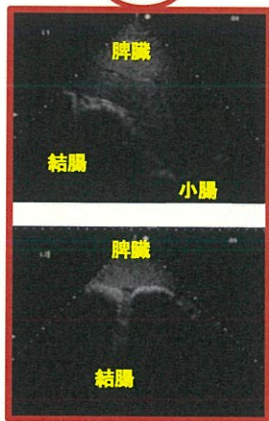


正常像

左

右

背側腰部



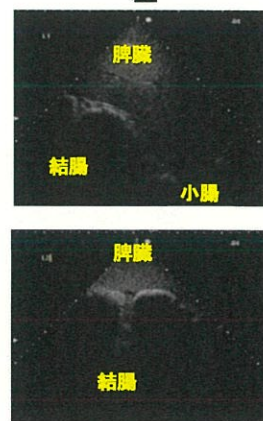
腹側腰部

正常像

左

右

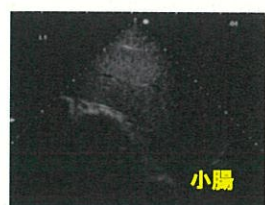
背側腰部



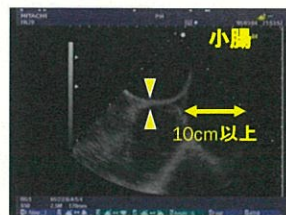
腹側腰部

エコー検査（症例）

正常像



異常像



エコー所見
 ・腸の拡張
 ・腸蠕動の廃絶



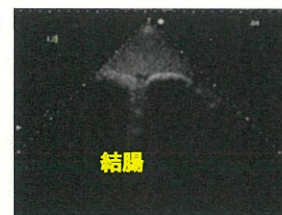
臨床診断
 小腸の閉塞



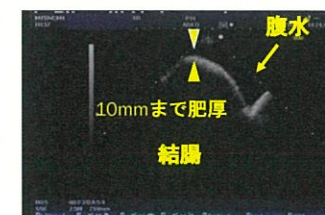
手術
 空腸の絞扼性閉塞

エコー検査（症例）

正常像



異常像



エコー所見
 ・腹水の貯留
 ・腸壁の肥厚

・走行が異なる結腸壁

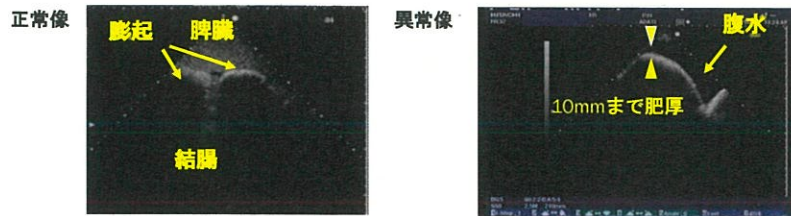


臨床診断
 大腸変位



剖検
 結腸捻転+変位

エコー検査（症例）



超音波検査は変位疝の診断に有用

血液検査

- PCVと総蛋白量（TP）
⇒脱水の重症度の指標（脱水にともない同調して上昇）

- 乳酸
⇒腸の虚血の指標（捻転や変位）

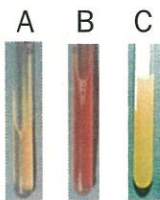
正常値：0.8mmol未満



腹水検査

- 腸捻転、破裂、腹膜炎などの重症度を診断

肉眼検査、総蛋白値（TP）測定、顕微鏡検査



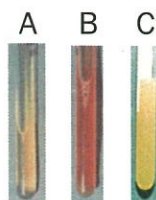
- A：正常な腹水
- B：腸管の絞扼、破裂
- C：腹膜炎



腹水検査

- 腸捻転、破裂、腹膜炎などの重症度を診断

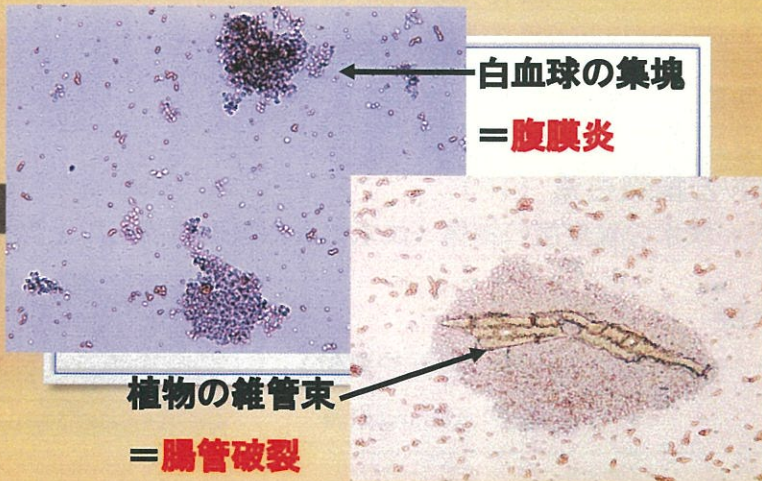
肉眼検査、総蛋白値（TP）測定、顕微鏡検査



- A：正常な腹水
- B：腸管の絞扼、破裂
- C：腹膜炎



腹水の顕微鏡所見



疝痛の診断・予防・治療法

- I : 主な疝痛の種類
- II : 馬が疝痛になりやすい理由
- III : 疝痛の症状
- IV : 疝痛の診断
- V : 疝痛の治療
- VI : 疝痛の予防

治療

• 軽度～中等度 → 内科療法

- ① 疼痛のコントロール
- ② 血液循環の改善
- ③ 腸蠕動の回復

①疼痛のコントロール（鎮痛剤）

- 疼痛を和らげることが重要！
- 鎮痛薬選択・使用は慎重に行うこと！



②血液循環の改善

- 補液

症状に応じて実施。

馬が飼料を消化するには、大量の水分が必要

- 持続点滴



③腸蠕動の回復

- 電気針



- 曳き運動



その他の対症療法（主に便秘症）

- 下剤の投与

流動パラフィン

硫酸マグネシウム（亡硝）

モサプリド など

- 電解質の経鼻投与



治療

• 重度 → 外科療法

開腹手術

開腹手術の判断基準①

- ☆鎮痛剤でコントロールできない痛み
- ☆直腸検査での明確な異常所見
- ☆聴診で蠕動が全く聴取されない

53

開腹手術の判断基準②

- 胃からの逆流→量が多い場合は開腹
- 腹水が血性
- 乳酸が高値を示す

54

疝痛の診断・予防・治療法

- I : 主な疝痛の種類
- II : 馬が疝痛になりやすい理由
- III : 疝痛の症状
- IV : 疝痛の診断
- V : 疝痛の治療
- VI : 疝痛の予防

予防方法①

- 適切な飼養管理
濃厚飼料の多給を避ける
飼葉は数回に分けて与える
(給与回数は3回以上)



粗飼料と濃厚飼料の1日の目安

粗飼料 : 体重の1~2% (5~10kg / 500kg)

濃厚飼料 : 体重の0~1.5% (0~7.5kg / 500kg)

飼料総量 : 体重の1.5~3% (7.5~15kg / 500kg)

予防方法②

- 歯の管理
- 糞の確認 (休養馬)
- 適切な駆虫プログラムの実施

予防方法③

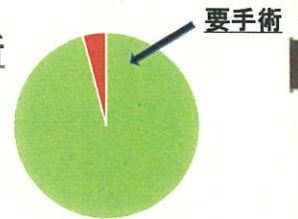
- ストレスの軽減 放牧
- 胃潰瘍薬の投与

まとめ

- 開腹手術が必要な症例は早急に診断



激しい疼痛を示したら、
すぐに獣医師に連絡し必要な検査を行う！！



3~4%の症例は手術が必要

まとめ

- 疝痛は予防できる！！

➡ 飼養管理や駆虫など、日常の管理に気を配ることが大切。

